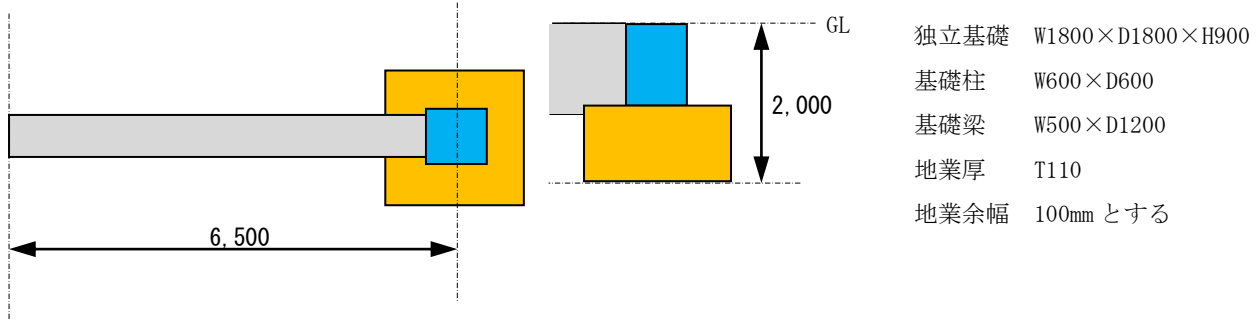


別紙 土工事根切を躯体個別で補正する場合の注意点

土工事で配置されている部材については、根切関連の項目は自動計算させることができます。ただし躯体個別や配置補正で入力した内容については自動計算には含まれませんので、躯体個別で入力する必要があります。入力する項目は根切・地中容積となり、埋戻し土と不用土処分は自動計算されます。

例)



(根切の入力)

No.	種類	材料No.	区分	選択	コメント	メモ	登録者
30	1.根切関連	2	2.根切(重布掘)	区無			Administrator

No.	名称	場所・部位/細目名称	摘要名称
2	土工	根切り(重布掘)	F
5	根切り(重布掘)		S H~

No.	種類	深さ(高さ)	長さ	幅	増余	減分	減分	減分	減分	員数	ALV	計
		深さ(計算式)	長さ(計算式)	幅(計算式)	深さ	深さ	深さ	深さ	余			
1	独立基礎	2,000+110	1,800	1,800	2					1		24.97
2												
3	基礎梁	1,200+110	6,500-900	500	1	2110	1			1		10.38
4												

- 独立基礎 深さ = 2000 (基礎下端レベル) +110 (地業厚)
 長さ = 1800 (独立基礎 X 寸法)
 長さ増余 = 2 (1 番深いレベルなので両側に余幅が必要)
 幅 = 1800 (独立基礎 Y 寸法)
 幅増余幅 = 2 (1 番深いレベルなので両側に余幅が必要)
 員数 = 1
- 基礎梁 深さ = 1200 (基礎梁下端レベル) +110 (地業厚)
 長さ = 6500 (スパン寸法) -300 (柱 X 寸法/2)
 長さ増余 = 1 (左端側の余幅の箇所数)
 長さ減分深さ = 2110 (右端側 独立基礎根切深さ)
 長さ減余 = 1 (右端側 余幅分減する箇所数)
 幅 = 500 (基礎梁 梁幅)
 幅増余 = 2 (両側に余幅が必要)
 員数 = 1

(地中容積)

No	種類	材料No	区分	選択	コメント	メモ	登録者
40	1.根切関連	10	31.地中容積	区無			Administrator

土工事

No	名称	場所・部位/細目名称	摘要名称
2	土工		F
14	地中容積	地中容積	S
3	m3		

No	コメント	種類	深さ(高さ)		長さ					幅					員数	ALV	計
			深さ(計算式)	高さ	長さ(計算式)	増余	減分深さ	減余	減分深さ	減余	幅(計算式)	増余	減分深さ	減余			
1	独立基礎		900		1,800					1,800					1		2.92
2																	
3	柱		2,000-900		600					600					1		0.40
4																	
5	基礎梁		1,200		6,500-300					500					1		3.72
6			100		900-300					500					-1		-0.03
7																	
8	地業 独立基礎		110		1,800+100*2					1,800+100*2					1		0.44
9	地業 基礎梁		110		6,500-900+100					500+100*2					1		0.44
10																	

- 独立基礎 深さ = 900 (独立基礎 H 寸法)
- 独立基礎 長さ = 1800 (独立基礎 X 寸法)
- 独立基礎 幅 = 1800 (独立基礎 Y 寸法)
- 独立基礎 員数 = 1
- 柱 深さ = 1100 (独立基礎天端から GL までの高さ)
- 柱 長さ = 600 (柱 X 寸法)
- 柱 幅 = 600 (柱 Y 寸法)
- 柱 員数 = 1
- 基礎梁 深さ = 1200 (基礎梁下端レベル)
- 基礎梁 長さ = 6500 (スパン寸法) -300 (柱 X 寸法/2)
- 基礎梁 幅 = 500 (基礎梁 梁幅)
- 基礎梁 員数 = 1
- 基礎梁 深さ = 100 (基礎梁と独立基礎の重複部分高さ)
- 基礎梁 長さ = 900 (独立基礎 X 寸法/2) -300 (柱 X 寸法/2)
- 基礎梁 幅 = 500 (基礎梁 梁幅)
- 基礎梁 員数 = -1 (減分式なのでマイナス)
- 地業
- 独立基礎 深さ = 110 (地業厚)
- 独立基礎 長さ = 1800 (独立基礎 X 寸法) +100*2 (地業余幅×2)
- 独立基礎 幅 = 1800 (独立基礎 Y 寸法) +100*2 (地業余幅×2)
- 独立基礎 員数 = 1
- 基礎梁 深さ = 110 (地業厚)
- 基礎梁 長さ = 6500 (スパン寸法) -900 (独立基礎 X 寸法/2) +100 (地業余幅)
- 基礎梁 幅 = 500 (基礎梁 梁幅) +100*2 (地業余幅×2)
- 基礎梁 員数 = 1

埋戻し土と不用土処分については、演算時に自動計算されるようになっています。

【 躯体内訳計算書 (算出根拠) - 土工事 - No. 1

No.	コメント	場所・部位 細目	摘要	数量	単位	項目区分
30		根切り (垂布掘)	H2110~1310	35.35	m ³	根切関連 - 根切 (垂布掘)
コメント		メッセージ	計算式 =	24.97		基礎梁
独立基礎		メッセージ	3.44x3.44x2.11x1			計算式 = 10.38
41		埋戻し土	根切土流用	27.46	m ³	根切関連 - 埋戻 (根切土)
コメント		メッセージ	計算式 =	35.35		地中容積
根切数量 累計		AUTO	1.00x1.00x35.35x1			計算式 = -7.89
42		不用土処分	場外処分	7.89	m ³	根切関連 - 不用土 (場外)
コメント		メッセージ	計算式 =	7.89		
根切数量 残り		AUTO	1.00x1.00x7.89x1			
40		地中容積		7.89	m ³	根切関連 - 地中容積
コメント		メッセージ	計算式 =			
独立基礎		柱	1.80x1.80x0.90x1			計算式 = -0.03
基礎梁		基礎梁	0.60x0.60x1.10x1			計算式 = 0.44
		基礎梁	6.20x0.50x1.20x1			計算式 = 0.44
		地業	独立基礎			計算式 =
		地業	基礎梁			計算式 =

埋戻し土[m³] = 根切土量[m³] - 地中容積[m³] で計算されます。

不用土処分数量は構造基準>躯体>材料登録>土工事>根切関連で自動設定を「1.使用する」に設定している項目により計算が異なります。

基本項目			
No.	種類	区分	自動設定
8	根切関連	21.不用土(場外...	1.使用する
材料登録			
No.	種類	区分	自動設定
1	根切(総括)		
2	根切(垂布掘)		
3	掘取		
4	盛土(搬入土)		
5	盛土(根切土)		
6	床付		
11	埋戻(搬入土)		
12	埋戻(根切土)		
13	不用	21.不用土(場外)	
		22.不用土(場内)	
		23.地中容積	
科目	2	土工	
部位			
細目	13	不用	
場所			
単位	3	m ³	

21. 不用土(場外) の場合

根切土量[m³] = 根切土量[m³]

22. 不用土(場内) の場合

根切土量[m³] = 地中容積[m³]